

平成23年度 第1回 平塚市図書館協議会 会議記録

開催日時 平成23年8月23日(火) 13時30分～15時30分
開催場所 平塚市中央図書館 会議室
出席者 会長 村山 真由美
副会長 小林 美和子
委員 磯部 博之、諸山 朝子、中野 威、高橋 麗奈
事務局 金子教育長、橘川社会教育部長、和田中央図書館長、池田北図書館長、桐山西図書館長、富田南図書館長、所館長代理、松澤館長代理、加藤主査

会議の概要

- 1 開 会 和田中央図書館長
- 2 委嘱状交付 金子教育長から各委員に委嘱状交付
- 3 教育長あいさつ
- 4 正副会長の選出
会長に村山委員、副会長に小林委員を選出
- 5 議 題
 - (1) 平塚市図書館協議会について
事務局が資料に基づいて、協議会の法的根拠、役割、委員の人数・任期・報酬について説明した。
(質疑) なし
 - (2) 平成23年度図書館の事業及び予算について
事務局が資料に基づいて、事業計画の主な事業を次のとおり説明した。
 - ・資料収集事業及び資料提供・利用者サービス事業は、図書館法に定められた最も重要なサービス業務です。
 - ・こどもサービス事業は、絵本を通して親子の絆を養うブックスタートやそのフォローアップとして開催する乳幼児おはなし会等です。
 - ・来館できない人へのサービス事業は、保育園や幼稚園を訪問する出前図書館、小中学校や公民館等を巡回する移動図書館サービス等です。(質疑応答)
委 員 こどもサービスの読書相談対応への強化について
 - ① 実際に相談は増えつつあるのか。
 - ② どのように強化していくのか。
 - ③ 1月から始まった学校図書館利用サービスの今の利用状況はどうか。事務局 ①については、非常に増えている。中央館については学童保育関係者からの質問が多い。
②については、実際に受けた相談内容をレファレンス記録として蓄積し、その後のアドバイスに役立てるなど行っている。

③については、登録学校数としては、平成22年度は小学校が10校で中学校が3校だったが、平成23年度は4月の段階で小学校25校、中学校5校となっている。

続いて、予算について、事務局が資料に基づき平成23年度の図書館予算は22,594万円で、これは一般会計の総予算の0.3%、教育費の3.1%になる。予算は、9事業に分かれていて、図書館毎に予算をもち運営している。又、図書館の資料費については、4館合計で、5,743万円で、図書館費の25.4%になると説明した。
(質疑応答)

委員 質問ではなく情報提供になるが、昨年度神奈川県教育委員会主催の読書活動推進フォーラムで手伝いを行ったが、その際、講師が最新の資料で子供たちに是非薦めたい本を会場に用意してほしいと、神奈川県下の公共図書館にリクエストをかけたところ、ほとんど揃わなかったが、揃った本の8割方が平塚の図書館から提供されたものだった。これは平塚市民として大変鼻の高い思いだった。

このような御時世で図書館の予算も厳しいとは思いますが、有効な図書の購入をしていただきたい。

事務局 平塚市図書館としても、資料費は重要なので、他を削っても資料費だけは確保するように努力をしている。

(3) 平塚市教育振興基本計画(奏プラン)及び平塚市子ども読書活動推進計画について

事務局が資料に基づいて、奏プランは、基本理念が「市民の学びを生かした生涯学習社会の実現」であり、6つの重点項目からなっています。重点項目1「読書文化の充実」には12事業があり、図書館では、「ボランティア育成事業」「来館しにくい人へのサービス事業」などの7事業について、取り組んでいる。

また、平塚市子ども読書活動推進計画(第二次)は、ライフステージで見る「つながる子ども読書活動」、こんな子どもに育てほしい(目指す子ども像)では、「豊かな心をはぐくむ子ども」「自分の考えをもつ子ども」「進んで人とかかわる子ども」としている。また、「つながり」をキーワードにして、家庭と地域と学校の中を、人・物・場所とつなげて読書活動の推進を計画し、読書環境の整備を進めていくと説明した。

(質疑)

会長 質疑については大きなテーマであるので、次回までにお考えいただきたい。

(4) 今期のテーマ及び開催予定について

事務局が資料に基づいて、開催は、今年度3回、来年度3回の計6回の開催を予定している。今年度はテーマを考えることと視察を考えている。

次に今期のテーマについては、先に述べたように事業・予算・奏プラン等を踏まえたうえで今期のテーマを決めていただきたい。前々回が「来館できない人へのサービス」、前回は「ボランティアを活用した図書館活動」だった。前々回のテーマの報告書から、同じ名前の予算事業ができ、あおぞら号(移動図書館車)の活用や目の不自由な方の郵送サービスの充実などが計られている。また、ボランティアを活用した図書館活動からは、今年度大人の図書館体験事業が計画されている。過去にとらわれず委

員の皆様の中で今期話し合ってみたい問題があれば御意見を聞かせていただきたい。

(質疑応答、意見)

会 長 事務局側から、図書館4館で、課題・問題はあるか、お聞かせ願いたい。

事務局 資料費が年々減っていく。限られた予算・人員のなかで、いかに図書館としてのサービスを向上させて行くか。図書館の運営の仕方（開館時間や職員配置の方法など）としてどのようなやり方がベストなのかを検討している。他の市の図書館のやり方などがそのままでは当てはまらないので、さまざまな所を見て参考にしつつ研究材料にしている。

事務局 地区館の中では児童書の冊数が一番多いが、年々厳しくなっていく予算のなかで、豊富な古い児童書へ新しい児童書をどのように加えていくか。

同じ予算の問題で、築18年の西図書館の建物に劣化が進行しているが、とくに空調設備に障害が多く発生している問題がある。

事務局 4月に館長として赴任してきた目で見えた感想で、利用者様への掲示や案内・検索システムのOPACの取扱いなどでの丁寧な案内を行う人員を置く運営を考えられないか。

中央館でいろいろなことが行われていることを発展させて応用する。その流れで、地区館にもレファレンス的な業務を行う人材が置ければいい。

事務局 地区館はストックのスペースも限られており、限られた予算の問題も考え、図書を選定について考えていく必要がある。

会 長 いま4館の館長の話では、基本的には「質の向上」というテーマに集約されると思う。その中でも、23年度事業計画にあるとおり、1番の資料収集、2番の資料提供・利用者サービスをどうして行くかという器の問題と人材の問題に課題が集中していると思われる。

委員の方、意見・感想はありますか。

委 員 情報化社会の中で、子どもが単に情報の受身になるのではなく、情報を取捨選択する能力を身につけるようにする。

委 員 4年前に平塚に来て、図書館（中央図書館）に初めて来たときの感想は、薄暗く閉鎖的で埃臭いというもの。最初の印象が悪いと、その後足を運びにくくなる。現在住んでいる地区の近所にある南図書館は、狭いけれども光が差し込んで明るく開放的であった。利用するものとしては、環境や設備・職員の笑顔が印象として大切である。

委 員 より開かれたサービスとして、インターネットサービスや青空の下に本棚を置き、テラスでコーヒーを飲みながら本を読める場所を作るといった民間的な発想が必要である。

また、レファレンスの充実として、例えば、ある音楽家について調べてということでは、その音楽家そのものの答えしかいただけなかったが、さらにその音楽家の生きた時代背景や文化、宗教なども含めて総合的に答えるレファレンスが必要であると思う。

地域資料の充実も重要である。資料の電子化などを図れば、この資料はこ

の館にはあって、あの館には無いといった問題も無くなる。また複数の人がホームページで閲覧できるなどのメリットが大きい。

委員 学校教育と連携し、学校の授業などで子どもが興味をもつテーマについてその場で答えを与えるというのではなく、図書館で調べるように持つていくことにより、図書館を利用したい、あるいはレファレンスを利用したいという子どもを育てていければいい。

会長 ありがとうございます。

これだけ提案をだしていただきますと、絞込みがなかなか難しく、又、できるものとできないものがある。事務局側の考えとも調整する必要がある。

事務局 今日、テーマをいろいろ出していただいたが、事務局でも検討させていただきたいので、本日は、意見を頂戴するというので、とどめます。

(5) その他

委員 (浜岳中学校区子ども読書活動推進協議会の活動から、活動紹介と、市のくらし安全課とともに作成した「元気になりたいときに読みたい本」の紹介、升水記念市民図書館で展示が行われている「生きる喜びと世界の平和展」(童話作家ノンニと日本の子どもたち)を紹介)

会長より閉会宣言があった。

以上